

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）中間評価結果

大 学 名	明治大学
整理番号	B-8
事 業 名	CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p>本プログラムは、我が国での経済発展に伴う弊害等の経験を踏まえ、先進的なアジア型の将来都市構想と共創的教育システムを創造するなかで、自国の問題とその特殊性を自覚し、発展段階を超えて共通の問題にアプローチできる専門知識・能力を有する、言語・文化の違いを超えた共創を実現できる人材を養成することを目指している。</p> <p>バンコクの明治大学アセアンセンターの教育環境を活用して、カンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナム（CLMV）諸国の教員と合同で共創FDを開催し、アジア型の将来都市構想に向けた教育力の向上と意識の共有を図っている。また、これまでに100名以上の日本人学生を派遣して学生会議を開催し、国際的かつ学際的な視点から政策案を協働で立案する機会を設けている点は評価できる。従来のアメリカ・ヨーロッパを中心とする連携プログラムをアジア諸国に展開し、質の高い共創的教育システムの構築という目標は先駆的であり、全学を対象に大学における学びに関するアンケートを実施し、学生が修得した能力を多角的に分析・測定することで、プログラムの質の保証を図っている。さらに、企業や国際機関の協力を得て行うPBL型体験学習による専門教育は、人材養成の上でも優れた取組であると言える。交流学生数については、派遣・受入ともに高い目標を設定している中で、派遣に関しては目標を上回る実績を挙げている。</p> <p>一方で、派遣先及び受入元に偏りがあり、現状ではラオス及びミャンマーとの交流が極めて乏しいが、各大学との協定締結も進められており、今後は交流活動を活発化させていくことが望まれる。また、明治大学の3部局及び15の相手大学が連携する大型な規模の交流であり、参加する学生全員が同等の教育機会を得て確実に学習成果を挙げるための工夫は常に必要であることから、共創カールブリックの完成が早急に望まれる。さらに、受入学生の滞在期間に配慮した3学部合同国内版PBL型体験プログラムについては、着実な実施が望まれる。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的に事業を展開していくことが期待される。</p>	